

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### ●千葉大学工学研究科デザイン科学専攻

##### 「高度デザイン教育プログラム」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

人材養成目的に沿った科目構成の整理として、サービスとプロダクトのデザインの推進を担う実践型人材を養成することを目的とし、知識の基盤となる各専門領域の講義として、サービス・デザイン論、デザイン・エンジニアリング論、サービス・デザイン・ストラテジー、デザイン・ソリューション・プランニングを新たに開講の上、実践型の演習科目として、サービス・デザイン演習、デザイン・エンジニアリング演習、サービス・デザイン・ストラテジー演習、デザイン・ソリューション・プランニング演習を実施したことにより、体系的なコースワークを構築した。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・知識の基盤となる講義では、サービスとプロダクトのデザイン分野において、世界的にリードする企業のプロフェッショナルを講師として招き、講師とは、事前に人材養成目的を理解いただいた上で、重点的に説明をお願いしたい事項について十分に打ち合わせし、本講義が体系的なコースワークに結びつくよう配慮した。
- ・PBL型のサービス・デザイン演習、デザイン・エンジニアリング演習、サービス・デザイン・ストラテジー演習、デザイン・ソリューション・プランニング演習においては、ケース教材に国内外のサービスにおける先端事例と、全ての演習に招聘した富士通・GK テックなどの実践的な企画・設計のプロセスを取り入れるという新たな試みを導入した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

講義の充実によりサービスとプロダクトのデザインの理解が促進され、また、PBL型の演習により実践的なプロジェクトの運営に関する理解が向上したことは、総合的に学生のマネジメント力の強化につながっており、コースワークの構築とそれによる体系的な知識の習得がなされた結果と考えている。なお、本取組に参加した学生によるアンケート結果では、満足度が非常に高いという結果が出ており、さらに学位授与数の増加、減少傾向であった海外留学の増加、また海外トップ大学からの留学希望者の増加もみられている。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

##### ●千葉大学工学研究科デザイン科学専攻

##### 「高度デザイン教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・人材養成目的に沿った科目構成の整理し、国内外の大学との単位互換協定を目的として、海外アライアンスプログラムを演習として設置した。海外の大学との共同によりプログラムを運営するもので、留学の足がかりになるプログラムとして機能している。
- ・デザイン・ダブル・ディグリー・プログラムを新設し、海外の大学との研究・教育の連携強化するプログラムを構築した。現在、上海交通大学、浙江大学との間で既に実施しており、平成23年度には、南洋理工大学（シンガポール）、清華大学との設置を目指している。また、浙江大学とは、ジョイント・トレーニング・プログラムを博士課程で実施しており、学生や研究者の交流を密に行っている。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・海外大学との連携による海外アライアンスプログラムは、大学間の連携にだけでなく、必ず企業がプログラムに参加することで、実践的な内容を実施するとともに、提案したサービスやデザインが実社会で使用可能かどうかについても評価をいただいている。このように、3つの機関が参加する海外アライアンスプログラムは産業界の評価も高く、様々な企業からの参加の問い合わせがくるようになった。
- ・デザイン・ダブル・ディグリー・プログラムは、実践と研究をバランスよく実施するプログラムであり、各々の大学で作品または論文を審査することで学位を授与する。また博士においても参考作品を製作することや、作品を学位の要件の一部と出来ることなどを含めて学内の規定を整備し実施しており、専門人材育成のプログラムとして綿密に構成されている。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・演習の充実によりPBL型の演習により海外での研鑽の重要性に対する理解が高まったとともに、参加した企業がどのようにグローバル展開を行っているかも理解でき、日本のデザインのおかれている立場より、それぞれがどのようなグローバル化を展開するべきかを体験できるプログラムとして構築することがで

きた。プログラムを開始してからは、既に4名の学生が留学（交換留学）を実施しており、「海外へ出る」というモチベーションの構築にもプログラムは十分に機能している。

- ・デザイン・ダブル・ディグリー・プログラムでは、極めて優秀な外国人留学生在籍することで、日本人へ大きな影響を与えている。また、ダブル・ディグリー・プログラムの学生が持ち込んだ研究が、国際的な研究としても発展し、人材育成を通して国際的な研究連携が可能となった。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携

##### 《理工農系》

##### ●千葉大学工学研究科デザイン科学専攻

##### 「高度デザイン教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

人材養成目的に沿った科目構成として、講義4科目、サービス・デザイン論、デザイン・エンジニアリング論、サービス・デザイン・ストラテジー、デザイン・ソリューション・プランニング、演習4科目、サービス・デザイン演習、デザイン・エンジニアリング演習、サービス・デザイン・ストラテジー演習、デザイン・ソリューション・プランニング演習および、産学連携デザインプロジェクトワーク、海外アライアンスプログラム、以上の10のプログラムは全て企業の期待する人材像に向けて開発したものであり、全ての授業に企業からの非常勤講師が参加しており、企業との連携に基づいた体系的なコースワークが構築できている。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・設置したコースワークの1/4は英語での授業を行っており、国際的な人材の育成を目指したものであり、グローバル化による人材のさらなる発展を目指している。
- ・PBL型の4つの演習においては、実践型の課題に取り組む、企業・学会・海外大学と様々な場所で発表を行い、学外からの評価を得ることで、学生に対する実践的なフィードバックを心がけた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・新たに設置した講義の全てが企業との連携により運営されているため、極めて実践的なコースワークを構築することができた。
- ・このプログラムを修了した学生の企業における評価は極めて高く、産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングは十分に図ることができた。
- ・プログラムは、BusinessWeekのWorld's Best Design Schools(32校)として選定されるとともに、プログラム中で開発したデザインが国際的なコンペティションで賞を獲得するなどして大学およびプログラムの知名度をあげるとともに、優秀な人材の獲得のための広報としても機能している。